

平成 26 年 9 月 3 日  
大分工業高等専門学校

## 平成 26 年度フィリピン共和国における足踏みミシンボランティア 事業報告

### 1. 平成 26 年度渡航者および事業関係者 (教職員)

氏 名	所 属・役 職
田中 孝典	都市・環境工学科 教授
手島 規博 (渡航者)	機械工学科 助手
岩本 光弘 (渡航者)	技術部 技術専門職員

(学生)

氏 名	学 科・学 年
荒巻 恵 (渡航者)	情報工学科 3 年
池邊 みはる (渡航者)	都市・環境工学科 3 年
箕井 梨乃 (渡航者)	電気電子工学科 3 年
佐藤 美矩 (渡航者)	都市・環境工学科 2 年
吉田 真帆 (渡航者)	都市・環境工学科 2 年
梅本 恭平 (渡航者)	電気電子工学科 1 年

### 2. 事業行程

日 時	業 務
8/19 (火)	移動 (大分→福岡→フィリピン共和国マニラ)
8/20 (水)	終日：足踏みミシン贈呈および修理技術の指導
8/21 (木)	終日：足踏みミシン贈呈および修理技術の指導
8/22 (金)	午前：マラカニアン宮殿，同博物館視察 (駐日大使の招待) 午後：フィリピン共和国国会議事堂視察 (駐日大使の招待)
8/23 (土)	午前：レイテ島へ移動，台風 30 号による被害状況等視察 午後：足踏みミシン贈呈および修理技術の指導，地域住民， 子供たちとの交流活動
8/24 (日)	午前：マニラへ移動，ケソン市へ移動 午後：贈呈ミシン利用状況等視察および応急修理 (ケソン市)
8/25 (月)	予備日 (活動のまとめ)
8/26 (火)	移動 (フィリピン共和国マニラ→福岡→大分)

### 3. 事業概要

平成 26 年度は一昨年度，昨年度と同様にフィリピン共和国において事業を行った。  
・8 月 20 日 (水)，21 日 (木) の両日は，終日 Sucat, Paranaque ” cornerstone”

の空き家において活動を行った。2日間ともに贈呈する足踏みミシン 26 台のうち 3 台を用いてミシンボランティア学生 6 名が主体となり、地域住民 6 名（20 日）、25 名（21 日）に対してミシンの修理およびメンテナンスの技術指導等を実施した。

また、同住民が独力で修理、メンテナンスが出来るように英語に翻訳した修理マニュアル（全 22 頁）を寄贈した。

なお、両日とも駐日フィリピン共和国大使 SULPICIO M. CONFIADO 氏夫妻（10 月よりクエートに赴任）が活動内容等を視察された。

・8 月 22 日（金）午前は、大使夫妻の同行のもと、マラカニアン宮殿、博物館を視察した。両所にてフィリピン共和国歴代大統領の歴史、日本との歴史について学芸員から説明を受けた。午後、フィリピン共和国国会議事堂を同所ゼネラルディレクター ANTONIO G. DE GUZMAN JR. 氏の案内により視察した。

・8 月 23 日（土）午前にレイテ島に移動後、2013 年 11 月に発生し、大きな損害をもたらした台風 30 号による被害状況等について視察した。午後、レイテ島の教会内ホールにおいて、贈呈した足踏みミシン 12 台のうち 3 台を用いてミシンボランティア学生 6 名が主体となり、地域住民 12 名程に対してミシンの修理およびメンテナンスの技術指導を行った。また、同住民が独力で修理、メンテナンスが出来るように英語に翻訳した修理マニュアル（全 22 頁）を寄贈した。最後に同教会の神父のあいさつ後、ミシンボランティア学生と地域住民、子供たちとの交流を行った。

・8 月 24 日（日）は、マニラに移動後、前回の事業において贈呈したケソン市内の施設を訪問し、足踏みミシンの利用状況等を視察した。地域の方々が交代で同ミシンを利用した縫製品の作製と販売を行うことで安定した収入が得られている等の説明があった。訪問時、地域住民が交代で贈呈した足踏みミシンを用いて、地域の小学校から依頼のあった生徒用靴下（15PHP/足）、雑巾（50PHP/kg）等の縫製作業を行っていた。今回、前回の事業において贈呈したミシンの利用状況について視察した結果、贈呈したミシンは地域の生活の支援に貢献していることを確認した。

また、現地で 1 台の故障したミシンを修理した際、日常のメンテナンスが不十分であることが判明した。今後英語マニュアルのさらなる充実、拡張をあわせて実施することを確認した。

\*8 月 20 日、21 日：ミシンボランティア学生は、活動後 3 組に分かれ、大使から紹介されたホストファミリー宅にそれぞれホームステイし、交流を深めた。



事業を実施した空き家と贈呈した足踏みミシン



足踏みミシン修理技術の指導（8月20日，21日）



活動後，駐日大使を囲んで



活動を行ったレイテ島の教会



台風 30 号による被害状況視察



レイテ島内に贈呈されたミシンと活動準備 (8月23日)



レイテ島の子供達との交流会 (8月23日)



前回贈呈 (ケソン市内) した足踏みミシンの利用状況視察 (8月24日)

【駐日フィリピン共和国大使から感謝状】



4. 今回の事業に参加した学生の感想文（一部）

○ 箕井 梨乃（電気電子工学科3年）

今回のフィリピン渡航は私にとって2度目でした。今回、私がリーダーとして1週間の間、マニラと津波で被災したレイテ島で足踏みミシンボランティア活動を行ってきました。今回も現地の方々は優しく、私達を歓迎してくれました。レイテ島の台風による被災地は、想像以上に悲惨な状況で驚きが隠せませんでした。被災から9ヶ月経過した時点でも、復旧は進んでおらず多くの人達は国連から支給されたテントで暮らし、大きな船も海から陸地へと押し上げられた状況でした。レイテ島の方々は辛さと悲しみを乗り越えているだろうか、と想像すると自分自身も悲しくなりました。レイテ島でのボランティア活動では、私の流暢ではない英語にも真剣に耳を傾けて、ミシンで上手く縫えたときは手を握って、「ありがとう」と言ってくれました。フィリピンは貧困の差が激しく、私達が日本で修理した足踏みミシンを贈呈することで、生計を立てている人たちが大勢います。今回の渡航で出会った女性は夫を亡くして、子供を養わないといけなくて困っていたところ、今回贈呈したミシンを使って安心して生活ができる、と泣きながら私達に感謝してくれました。日本で壊れて使われなくなった足踏みミシンがフィリピンでは命を繋ぐ大切なものとして扱われ、私達は今後もこの活動を続けて多くの貧しい人達を支援したいと思いました。

○ 吉田 真帆 (都市・環境工学科 2年)

今回、私達はマニラと台風で被災したレイテ島で、日本から贈呈した足踏みミシンを使って修理技術の指導を行いました。今回、私にとって初めてのフィリピン渡航で上手く英語で現地の人々に修理技術の説明ができるのかすごく不安でしたが、現地の方々は私達の説明を真剣に聞いてくれました。フィリピンでは子供を学校に行かせたくても行かせられない親が沢山います。私達が贈呈したミシンで作った縫製品を売ることにより収入が得られて、子供を学校に行かせることができるそうです。現地で仲良くなった子供達のほとんどが学校に行けず、貧しい家庭で生活しています。この子供達も学校に通うことができるようになってほしいと思いました。

今回、フィリピンでのミシンボランティア活動を通じて思ったことは、フィリピンは日本に比べて貧富の差がとても激しく、不便な点です。しかし、その不便に対応する力が身についたと思います。また、自分にはミシンの修理技術力が足りないことに気付くことができました。これからは自分に足りない修理技術を身に付ける努力を続けて、またフィリピンで多くの人達にミシン修理技術の指導を行いたいと思います。

○ 荒巻 恵(情報工学科 3年)

今回、私達はフィリピン共和国のマニラ、レイテ島で足踏みミシンボランティア活動を行いました。英語での修理技術の説明は思うように伝えることができず、とても苦労しましたが、現地の方々は私たちの慣れない英語を一生懸命に聞き取ろうとしてくれました。また、休憩時間には、子供たちと遊んだり、現地のダンスと一緒に踊ったりして、交流を深めることが出来ました。初日は私達が以前に贈呈したミシンを使っている地域を見学に行きました。そこでは、現地の人達が5台のミシンを交代で使い、作ったマットや靴下を販売して収入を得ているそうです。自分たちが修理し、寄贈した足踏みミシンが実際に使われているところを見て、本当に誰かの役に立っていることを実感しました。レイテ島へ行って感じたことは、その被害の大きさでした。被災から半年以上が経つても復興が進まず、未だ不自由な生活をしている方々が大勢いることが分かりました。レイテ島ではミシンの修理技術の指導と現地の子供達との交流を行いました。交流では、約150人の子供達に日本から持って行ったお菓子や風船をプレゼントしました。一人ひとりにお菓子を渡すと嬉しそうに笑ったり、お礼を言ってくれて、レイテ島まで来てよかったと思いました。

今回のミシン活動に参加して、自分がとても恵まれた環境で生活しているかを感じました。フィリピンでは多くの貧困な人達が大変な苦勞をされています。そんな人達のために、今の私達に出来ることはミシンの修理くらいしかありませんが、そのミシンが人の役に立つようにミシンの修理を精一杯頑張りたいです。

○ 佐藤 美矩 (都市・環境工学科2年)

私は、初めてフィリピンでの足踏みミシンボランティア活動に参加したので上手く修理技術を教えることができるか不安でした。しかし、英語は通じなくてもジェスチャーで修理技術を教えることができました。フィリピンの人達は、覚えるのが早いと思いました。最初は縫えなかった人達は2、3回練習するとすぐに縫えるようになりました。縫えるようになったら巾着などを作ってもらい、フィリピンの人達は愉快で楽しくミシンボランティア

ア活動を行うことができました。

今回のミシン活動に参加して良い経験をしました。自分達が修理したミシンが現地の生活に役立っていることを知って嬉しく思いました。これからもミシンボランティア活動を頑張っていて、少しでも多くのフィリピンの人達に役に立てるように多くの足踏みミシンを修理したいと思います。

#### ○ 池邊 みはる（都市・環境工学科 3年）

今回、私たちはフィリピン共和国に渡航して、マニラとレイテ島で足踏みミシンボランティア活動に行ってきました。修理技術の指導は、学生が2人ずつペアになり3グループに分かれて現地の方に修理技術、メンテナンス、縫い方などを教えました。

この活動で印象残っていることは本当に楽しかったということです。もちろん、修理技術を教えるときは正確に伝わるように私たちも必至ですが、現地の方も私たちの慣れない英語を聞き取って自分たちの技術にしようとして真剣に取り組んでいました。少し修理の仕方に慣れてきたら歌い出したり、一緒に写真を撮ったり、とてもフレンドリーで明るい人ばかりでした。お昼休憩や活動の合間にはみんなで一緒に踊ったり、お母さんと一緒に来た子供達と遊んだり、心から楽しくて笑顔が絶えない活動となりました。

今回の活動で、自分達が贈呈した足踏みミシンが実際に使われているのを見学し、去年災害にあったレイテ島の復興の現状を目の当たりにして、多くの事を学び、感じる事ができました。そして、自分の中で新しい課題も見つかりました。自分のミシンの修理技術を向上させていきたいです。また、レイテ島に行って将来は少しでもボランティア活動に携われる仕事につきたいと思いました。社会に出たときに誰かの役に立つような技術者になれるようにまずは高専でたくさんの知識や技術を身につけて、どこにいても通用する立派な技術者になりたいです。そして感謝してくれる人達がいる限り、足踏みミシンボランティア活動も続けていきたいです。

#### ○ 梅本 恭平（電気電子工学科1年）

僕は今回初めてフィリピンでの足踏みミシンボランティア活動に参加しました。マニラでは多くのスラム街、大きな家を見て貧富の差をとっても感じました。

今回は昨年11月に台風で被災したレイテ島にも行きました。今でも被災状況は変わらず、未だに国連の支援物資で生活している人も多く、ホテルまでの道のりだけでも崩れている家や大きな貨物船が岸に打ち上げられていました。レイテ島からマニラに戻った後、以前に贈呈したミシンが使われている小さな作業場を視察しました。そこでは学校で使う雑巾や玄関マットを作っていました。作業している人達は黙々と作業をしていました。贈呈したミシンが本当に人の子役に立っている、と思いました。

今回、フィリピンに行って本当に色んなことを学ぶことができました。普段の学校生活では経験できないことを経験し、色んな意味で大切なことを沢山知ることができたと思います。また、現地の子供達とも楽しい時間を過ごすことができました。

渡航期間中、先輩達とコミュニケーションが図ることができ、とても楽しい1週間でした。1週間ありがとうございました。そしてこれからもまたよろしくお願いします。